

+

## ごあいさつ

本日は、「安倍圭子のマリンバ・チャペル・ナイト」に、ご来場いただき、誠にありがとうございます。

また、日ごろより情報誌「アヴァンティ」をご愛読いただき、また、温かい応援をいただき、厚く御礼申し上げます。

「アヴァンティ」は、働く女性のための情報誌として福岡に誕生して12年。現在、福岡版、北九州版、熊本版と3誌発行し、合計発行部数は31万部になります。創刊以来、働く女性たちの交流の場を作りたいと、さまざまなセミナーや食事会、シンポジウムなどを開催してまいりました。今回、初めてコンサートを主催いたします。

私どもの初めてのコンサートとして、国際的なマリンバ奏者、安倍圭子先生をお迎えできること、大変光栄に思います。世界各地で絶賛を浴びた安倍先生の卓越した技術と芸術性による幻想的なマリンバの演奏をご披露いただきます。

また、安倍先生を生涯の恩師と仰ぐ久留米在住の田代佳代子さんとの共演も実現します。地元に戻られて12年、田代さんは、九州の地でマリンバのすばらしさを、情熱を込めて伝えていらっしゃいます。この秋には、ヤマハ天神センターでもマリンバ教室が開講します。お二人の華麗な演奏、エキサイティングな一夜をどうぞお楽しみください。

最後に、今回のコンサート開催に際しましては、各方面の方々より温かいご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

株式会社 ファウブ (アヴァンティ編集部)

代表取締役社長 村山 由香里

+

## プログラム

### 第I部

六本撥による五木の幻想 ..... 安倍 圭子 作曲  
*Ilsuki Fantasy for Six Mallets*

祭りの太鼓 ..... 安倍 圭子 作曲  
*Voice of Malsuri Drums*

ドナ・ドナ ~マリンバのための~ ..... ショロム・セクンダ 作曲/安倍 圭子 編曲  
*Dona dona for Solo Marimba* *Shalom Secunda*

ガレリア・インプレッション ..... 安倍 圭子 作曲  
*Galilee Impression*

マリンバ・ダモアレ ..... 安倍 圭子 作曲  
*Marimba d'amor*

### 第II部

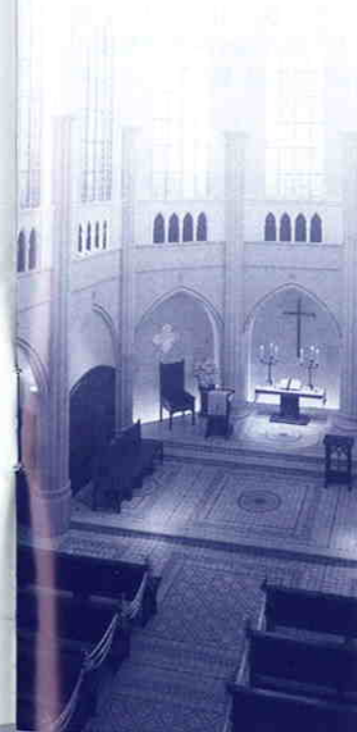
道II ..... 安倍 圭子 作曲  
*Mi-chi II*

山をわたる風の詩II ~2台のマリンバのための~ ..... 安倍 圭子 作曲  
*Wind Across Mountains II for Two Marimbas*

タンブラン・パラフレーズII ~2台のマリンバのための~ ..... 安倍 圭子 作曲  
*Tambourin Paraphrase II for Two Marimbas*

風紋II ~2台のマリンバのための~ ..... 安倍 圭子 作曲  
*Wind Sketch II for Two Marimbas*

森の会話 ~2台のマリンバのための~ ..... 安倍 圭子 作曲  
*Conversations in the Forest for Two Marimbas*



第I部

六本撥による五木の幻想

安倍 圭子 作曲

導入部から終わりまで保たれる単純なリズム・パターンの繰り返しは、遠い日の穏やかな世界を思わせる。“五木の子守歌”のテーマが最初は低音部に断片的に現れるが、中間部では六声部のコーラルで豊かに演奏され、六本撥によるマリンバ・サウンドの美しさが発揮される。この柔らかい六声部のトレモロ奏法に対して、密集和音の強いアクセントと緊張感のある“間”の対比が効果的な空間を創り、曲の印象を強いものにしていく。

祭りの太鼓

安倍 圭子 作曲

日本太鼓を打つ時に受け継がれてきた伝統的な“形”と“祭り”の雰囲気、特殊マレットを使用してマリンバに取り入れた作品である。曲は三部形式をとり、五音階の上に日本太鼓の特徴あるリズム・パターンとメロディーが反復されながら発展していく。中間部では、ルバートをともなったアルペジオの中にメロディーが浮き沈みする。

テーマは再び、特殊マレットの幅のある音色と、マレットの柄の手許についた堅いゴム球が創り出すリズム・パターンの上に再現される。ゴム球がたたみ込むように連打され、緊張感と迫力を増してコーダに至る。

ドナ・ドナ ～マリンバのための～

シヨロム・セクンダ 作曲/安倍 圭子 編曲

ジョーン・バエズが歌って、反戦歌として支持を得たフォークソング的な作品である。美しいメロディーは深く人々の心にしみわたり、多くの人に愛されている。マリンバの無伴奏曲として効果的な表現方法を駆使し、あたかもマリンバ独自の世界を持つオリジナル曲かと錯覚するような完成度の高い編曲となっている。

ガレリア・インプレッション

安倍 圭子 作曲

イスラエルの民謡をテーマにして、六本撥の効果をフルに生かして書かれた作品である。

メロディーの美しさは、単音と重音の対比によって強調され、テーマがリズムに乗って発展していく。マリンバの響きを十分に楽しめる作品である。

マリンバ・ダモーレ

安倍 圭子 作曲

冒頭の装飾音をともなった音符は、運命的瞬間を暗示している。この作品はマルティニ (Martini) のテーマを発展させ、マリンバの表現力の可能性を多面的に探究、追求して書かれている。テーマの断片は様々な内容を伝えるメッセージへと変貌していき、長調と短調の織り成す色彩感がマリンバ独特の響きに置き換えられ、聴く側に陰影のある深い感動を呼び起こさせる。

ソロ・マリンバ曲として音楽的内容を伴った難易度の高い作品で、マリンバに対する作曲者の独自の世界観が明確に表現されている、聴きごたえのある作品になっている。

第II部

道II

安倍 圭子 作曲

タイトルの“道”は、人それぞれに与えられている各自の歩むべき異なった道を意味し東洋思想における宇宙の“真理”に通じる意味の道を指している。シンプルな右手のメロディーが自然に即興演奏へと発展して生まれた作品である。左手の同じモードの繰り返しの上にメロディーを点的に置き、トレモロなしでレガートなフレーズを感じさせるように書かれている。他の楽器にはないマリンバ独自の世界を持つ作品である。

「道II」では、オリジナル版のマリンバ・ソロ曲「道」を発展させ、足首にインド鈴、手首にカシシをつけ、身体全体でリズムと音楽空間を表現するダイナミックな曲に仕上がっている。

山をわたる風の詩II

～2台のマリンバのための～

安倍 圭子 作曲

六本撥による「山をわたる風の詩」をベースにして、2人のマリンバ奏者用に作曲されている。第1、第2奏者とも4本撥を使用し、遠い山からのメッセージを伝えるように高音のオクターブ奏法の弱音で始まり、徐々に声部を増していく。第2奏者は常に第1奏者の音楽的幅を拡大するように書かれているが、中間部では、各パートが異なるフレーズを持ち、リズムのからみあいがデュエットの面白さを効果的に出している。第1パートは単独でソロ曲としても演奏される。

タンブラン・パラフレーズII

～2台のマリンバのための～

安倍 圭子 作曲

フランス民謡の「タンブラン」のテーマが木細工のように組み込まれたリズムで楽しい作品である。撥の柄による特殊奏法を随所に使い、音の響きを止めるミュート奏法とこれを対比させることにより、ユニークなマリンバ・サウンドを創り出している。左手では一定のリズム・パターンを保ちながら、右手で変拍子的なアクセントを持つメロディーを奏する等、マリンバ2台によりその効果は倍増し、躍動的で視覚的にも大変楽しめる作品となっている。

風紋II

～2台のマリンバのための～

安倍 圭子 作曲

この作品は、マリンバの響きの中に旋律の輪郭が浮かび上がってくるように書かれている。冒頭の4度音程をベースにした和音構成からは、風が創り出す透明でデザイン画のような外界の景色を、コーラルの部分からは内的情感をともなった抒情詩的要素を表現しているような印象を受ける。

独創的な和音配置はマリンバ2台の増幅された響きにより、より効果的で説得力のあるものとなり、色彩感の強い作品となっている。

森の会話

～2台のマリンバのための～

安倍 圭子 作曲

「森の会話」は「森の会話I」をもとに作曲されている。1988年、マリンバと3人の打楽器奏者のための「森の会話I」は、以前作曲されたソロ・マリンバのためのプリズムを発展させて作曲した。さらに1993年、ミシガン室内合奏団の依頼によりマリンバ、サクソフォーン、オーボエ、2人の打楽器奏者のための「森の会話」を新ヴァージョンとして作曲した。

作品は使用される打楽器の音色により3つの部分に分けられる。木質の楽器、金属の楽器、皮と木質の楽器の打楽器部分にサクソフォーン、オーボエがからみ、各楽器のやりとりからは、自然界の小動物たちや樹木の会話を聞くようでもあり、演奏者の間を歩き交う室内楽的会話と華麗なマリンバの世界を存分に楽しめる作品。

+ 曲目解説

